

### 8. 6. 3 駒ヶ岳

(担当)：岡崎紀俊・荻野 激・田村 慎

駒ヶ岳の現地観測は、山頂火口原での火口温度観測、山麓での水質および地下水位観測を実施した。

昭和4年火口および96南火口列では、全体として噴気が非常に少ない状態が続き、熱活動に大きな変化はみられなかった。また、山麓の駒の湯、トドメキ温泉、留の湯の水質にも大きな変化はみられなかった。

### 8. 6. 4 十勝岳

(担当)：村山泰司・石丸 聡・田村 慎

十勝岳の現地観測は62-0、62-I火口周辺での地温連続観測、62-II火口での火口温度観測、大正火口での火山ガス採取、山麓温泉・湧水の水質観測および地下水位観測を実施した。また、前十勝および十勝岳中腹の2箇所GPS連続観測を実施している。

GPS観測による基線解析の結果、2006年秋から2007年春の間に、62火口群近傍の前十勝観測点で北西方向へのわずかな変動がみられた。しかし、地温連続観測の記録からは、この時期に特異な温度上昇はみられなかった。また、大正火口の火山ガスや山麓温泉・湧水の組成・温度にも大きな変化はみられなかった。

### 8. 6. 5 雌阿寒岳

(担当)：石丸 聡・岡崎紀俊・村山泰司・田村 慎・荻野 激・秋田藤夫・柴田智郎

雌阿寒岳の現地観測は、ポンマチネシリ・中マチネシリ火口および2006年3月の小噴火により形成された北西斜面噴気列で実施した。調査項目は温度観測、火山ガス採取、山麓部での水質観測などである。またポンマチネシリ火口付近と北西側登山道8合目付近の2箇所GPS連続観測を実施している。

北西斜面噴気列では活発な噴気活動が続いている。この噴気列下方の地熱地帯において、地温の分布とその時間変化を把握するために地温の定点観測(32点)を開始した。観測の結果、南北約200m、東西約100mの範囲で周辺より高い地温が観測されたが、6月と10月では、その温度および範囲に顕著な変化はみられなかった。

ここ数年、噴気温度の低下傾向がみられるポンマチネシリ96-1火口では、噴気温度が100℃前後まで低下していた。一方、ポンマチネシリ第4火口の地温連続観測点では2006年末頃から地温の上昇傾向がみられた。

2008年1月9日には火山性地震が多発したため、北西山麓4合目付近に北海道大学地震火山研究観測センターと共同でGPS臨時観測点を設置した。ポンマチネシリ火口付近のGPS連続観測点データからは、火山性地震の多発に伴うような変動はみられなかった。しかし2006年小噴火後に地殻ひずみ変化をとらえるために設置した阿寒湖温泉の水位観測点(北海道大学地震火山研究観測センターとの共同観測)では、地震増加に対応した水位低下が観測された。

北西斜面噴気および中マチネシリ火口の火山ガス組成および山麓温泉水・河川水には大きな変化はみられなかった。